

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

アメリカザリガニ

学名 *Procambarus clarkia*

通称 えびがに まっかちん あめりかえび



アメリカ合衆国南部原産。1927年に鎌倉市にあった「鎌倉市食用蛙養殖場（現・岩瀬下関防災公園）」に導入されたのち、逸出や放逐により全国に広まりました。横須賀では1939年頃に池田町の用水路で既に確認されています。もともとは日本の植民地や欧米諸国に向けた輸出用に養殖されていたが、戦時下の混乱により頓挫しました。今では全国の都道府県で定着しています。

成体は最大で20cmほどになり、体色が赤くなることから「まっかちん」とも呼ばれています。また、幼体は茶色く小さいことからニホンザリガニと間違われることがありますが、現在は東北、北海道にしか分布していません。

子どもたちのペットや採集の対象として、また教材としても馴染みが深く、ザリガニ釣りに懐かしさや自然の原体験を感じる人も少なくありません。

影響

雑食性で水中の植物、昆虫、魚類、カエルの幼生（オタマジャクシ）、エビ類など何でも食べます。食物が豊富で天敵の少ない環境であれば、1年で500倍に増殖し、食べられやすい生物からあっという間に姿を消していきます。これまで三浦半島にはザリガニのような生物がいなかったため、それを好んで捕食する天敵もいません。水田では、田植え直後の稲を食べてしまったり、畦に穴を開けたりして農業への被害も発生しています。

ザリガニカビ病を保菌し、ニホンザリガニへの感染が懸念されます。アジア諸国やヨーロッパ諸国にも人為的に侵入しており、在来のザリガニを根絶させた事例もあります。水辺生態系への影響は極めて深刻で、Global Invasive Species Database および日本の侵略的外来種ワースト100に指定されています。



三浦半島での分布傾向

三浦半島全域に分布しています。河川や公園の池、水田などに生息するため、ほとんどの淡水環境に浸透しています。

公園の池や新たに作ったビオトープなどには、ペットとして飼っていたものが捨てられて定着しました。河川や、河川につながる池には、大雨による増水時に分布を広げました。繁殖力が強く、交尾済みのメスが1匹放されるだけで翌年には爆発的に増殖してしまいます。



駆除の方法

生態系への影響を防ぐには、人の努力によって根絶か、低密度状態に維持することが必要です。土中に巣穴を掘って数ヶ月間は生存できるため水辺を干し上げただけでの駆除は難しく、フェロモントラップ等の誘引剤も研究段階です。そのため駆除方法は「捕獲」のみとなります。

小規模なビオトープ池やコンクリート水路などでは、全て根絶することを目指したいところですが、ある程度の面積のある水辺では事実上根絶は難しく、低密度状態を維持することとなります。その際も、捕獲をやめれば半年以内に個体数が回復するため、毎年駆除を継続する必要があります。

作業自体は簡易なので、小学生のフィールドワーク等でも取り扱いやすく、成果も協力人数に比例するので、団体や地域で継続的な取り組みができるよう検討しましょう。



注意 捕まえた後は…

捕獲した個体は生ゴミ、堆肥、食用にするなど、適切に処理してください。土に埋める際は、致死を確認してから埋めてください。子どもに配ると放されてしまう場合があるため、メスは渡さないなどの配慮が必要です。

オスとメスの見分け方は？

交尾肢の有無でわかります。



♂ オス 交尾肢がある
♀ メス 交尾肢がない

在来種のザリガニっているの？

います！

ニホンザリガニ

Cambaroides japonicus

在来種のニホンザリガニは関東以南には分布しておらず、北日本の山地の沢に自然分布しています。水温が上がる水田や用水路には生息できず、絶滅危惧II類に指定されています。



アメリカザリガニをおいしく食べるには

アメリカでは地元の名物料理とされるほか、フランス料理にも使われるザリガニ。捕れたてのアメリカザリガニを調理してみましょう。

アメリカザリガニの下ごしらえ

- ① ゴム手袋などをして水でよく洗う
- ② 生きているうちに頭と尾（背わた）を取る
- ③ 多めの湯で3分ほど茹で、殻をむく



ジェノベーゼソース炒め



ハサミの塩ゆで



ザリガニピザ

方法その1



たも網、トングを使って1匹ずつ拾い上げる

方法その2



さで網、引き網を使い落ち葉や泥ごとすくう

方法その3



定置網、カニカゴを一晩仕掛けておく

方法その4



回収ボックスを設置して子どもの力を借りる

方法その5



池のかい掘りなど水を抜いて拾う

方法その6



個体の少ない水田などでは、巣穴を掘り返す